

## Vrije Universiteit Amsterdam 図書館紹介

鈴木 聡士 (経済学部准教授)

私は、2006年9月から2007年9月の1年間、Vrije Universiteit Amsterdamにおいて客員研究員として研究に従事しています。そこで、このVrije(フライエ)大学およびその図書館について紹介したいと思います。

大学名称の「Vrije」はオランダ語であり、その英語訳はFreeとなります。なので、Free University Amsterdamと英訳されています。しかし、このオランダ語のVrijeに込められた精神は、単純に「自由:Free」という意味だけではありません。この名称には、国家や教会からの干渉を受けずに、自主・自立・中立的立場から教育を行いたい、という強いメッセージが込められているようです。オランダ人の同僚に名称の由来を聞いたとき、「単純にFreeと訳すと、誤解されてしまうんだよな」と話していたのが印象的でした。

Vrije大学は1880年に設立され、現在12の学部、11の研究所に、約2,000人の研究者と約19,000人の学生が在籍する総合大学として、英国のタイムズが発表するTimes Higher Education Supplement (THES)の世界大学ランキング(2006)においてもTop 200 Universities (<http://www.topuniversities.com/worlduniversityrankings/results/2006/>)にランクインしています。

立地は、アムステルダム郊外に位置していますが、国鉄、メトロ、トラム、バスの駅が全て至近にあり、交通結節点となっている便利な地域です。さらに、欧州における大規模国際空港であるスキポール空港からも、鉄道で一駅7分の場所であることから、極めて便利なロケーションです。また、地価が全体的にとっても高いアムステルダムの中でも、最も地価が高い便利な地域に、大きなキャンパスを有しています。

私が所属する経済・経営学部は8学科で構成されており、その中の空間経済学科(Department of Spatial Economics)に所属しています。この学科には、世界中から集まった約60人もの研究者が所属し、研究・教育活動を行っています。

このように、大規模なキャンパスと学部を有していることから、大学図書館は総合・集約的な一つの施設ではなく、学部の棟毎に分散立地しており、かつ学部棟内の各階にも必要な本が分散配置されています。これはとても便利なシステムであり、図書館までの移動距離が極めて短く、エレベータで数階移動するだけで、容易に必要な本にアクセスすることができます。しかし、仮に医学部棟に必要な本がある

場合、移動距離が長くなるデメリットもありますが、このようなケースは稀です。

また、ただ単に施設立地的な効率化が図られているだけではなく、検索システムなどがインターネットと高度に統合化されています。例えば、論文検索システムとして有名なグーグル・ scholar(<http://scholar.google.com/>)に大学内からアクセスし、特定の著者の論文を検索した場合、その検索結果と大学図書館での論文・書籍の有無等の情報が高度にリンクされており、極めて効率的に関係書籍や論文などを検索することができます。さらに、図書館のwebサイト(<http://www.ubvu.vu.nl/>)にアクセスし、e-Journalsシステムというものをを用いて、世界中で編集・出版されている論文などを瞬時に検索・印刷することが可能です。つまり、自分の研究室の中で、探したい論文を検索し、それをダウンロードして印刷することができます。これは、自分の研究室から一步も外に出ることなく、欲しい論文を瞬時に入手することが可能であることを意味します。

このように考えた場合、蔵書数や図書館面積等の物理的規模のみでは、その図書館の有益性を計ることは、将来的に難しくなってくるのかもしれません。

Vrije Universiteit Amsterdam 図書館

